

令和5年度 島根県教育センター 所内研究発表会

通常の学級における子どもたち
一人一人の教育的ニーズに応えるために

～ 生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～

【1年次】



島根県教育センター 教育相談スタッフ
相談セクション & 特別支援教育セクション共同研究

本日の流れ



1 研究の背景

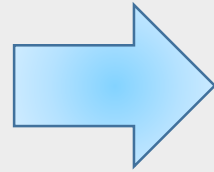
学校教育の場

学習上の困難

生活上の困難

関係づくりが困難

発達の課題



- 不登校
- いじめ加害・被害
- 不適切・不適応行動
による対人トラブル

等

ニーズ

問題行動を起こす理由、背景を理解していく方法
適切な援助方法を知りたい、習得したい

1 研究の背景

学校では、これまでも様々な取組を工夫し、実践してきた。

魅力ある学校づくり、居心地のよい学級集団づくりなど



適切に支援
組織的な対応

1 研究の背景

ソーシャル
スキル
トレーニング

ICT機器
を活用して
個別支援

外部機関と
連携

どうして
成果が出ない
んだろう？



教師



1 研究の背景

- 学習困難？
- いじめ？
- 対人トラブル？
- 不登校？
- 心理的な不安？
等



教師

特別支援教育からの
アプローチ

生徒指導からの
アプローチ

教育相談からの
アプローチ



1 研究の背景

○学習
○いじ
○対ノ
○不
○バ

解決

レ?
不安?
等



教師

特別支援教育
+
生徒指導
+
教育相談

一体化
融合させた支援



1 研究の背景

本研究での取組を通じて目指すところ

生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させた
子どもの見方・捉え方や支援方法を明らかにする

**子どもたち一人一人の教育的ニーズに
応えるための方策を探り提案すること**

2 今年度の取組

①学校現場での
子ども理解に関する
課題等の情報収集・整理

②先行研究の調査や
先進地視察等による
情報収集・整理

③研究の方向性・
具体的な方策の
検討



2 今年度の取組

①学校現場での子ども理解に関する課題等の情報収集・整理

相談S、特別支援教育S 主管研修受講者アンケートからみた、学校の現状や課題

教職員の意識をそろえることと、そのために時間を確保することが必要
(「生徒指導主任・主事等研修」より)

どの子ども安心して学習できる学級経営や環境づくりが基本 (「教職経験6年目研修」より)

よい言葉がけを意識する、子どもの言動・考えを受容することをしていきたい
(「不登校の理解と支援講座」より)

コーディネーター一人でするのでなく、学校を巻き込んでみんなで実践することが啓発につながる
(「新任特別支援教育コーディネーター研修」より)

できることやよさを大人と一緒に伸ばしていくことが重要だと感じた
(「子ども理解と支援講座」より)

日々の授業で精一杯で、「困っている子」の背景を見ることができてなかった
(「新任教職員研修」より)

子ども理解

連携

すべての
子どもを支える

2 今年度の取組

子ども理解

子どもの見方・とらえ方を
学校全体で共通認識

連携

チームとして教職員の
意識や考え方の方向性を
揃える

すべての 子どもを 支える

発達を支えるかかわりを
学校全体に浸透

3つの要素を含んでいる
取組について

先進地の視察、知見の聞き取り調査へ

- ★ポジティブ行動支援
- ★スリンプル・プログラム
- ★自立活動の視点
- ★インクルーシブ教育

2 今年度の取組

② 先行研究の調査や先進地視察等による情報収集・整理

★ 徳島県教育委員会と徳島県立総合教育センター特別支援・相談課 「ポジティブ行動支援」の取組【PBS】について

(※Positive Behavior Support 略称：「PBS」)

○ 徳島県教育委員会と徳島県立総合教育センター特別支援・相談課が連携し、徳島県内の全小・中学校でPBSによる学校・学級支援に取り組んでいる。

○ PBSとは

児童生徒の「できないこと」ではなく、「できていること」に着目し、褒めたり認めたりすることで『望ましい行動』を増やし、結果的に『望ましくない行動』を減らしていく支援方法

【行動を捉える3つのフレーム】

行動の前

行動

行動の後

2 今年度の取組

- 教育相談的なかかわりと特別支援教育の知見を組み合わせた取組
- 教職員が一体となって取り組む
- 取組としての幅の広さ

★PBSは、教職員が一体となって行う、生徒指導やインクルーシブ教育を効果的に進める取組の一つであると考えられる。

2 今年度の取組

★島根大学 藤川 雅人 准教授

「自立活動の視点を通常の学級に活かす良さ」について

自立活動 … 特別支援学校 小・中学校特別支援学級 小・中・高等学校の
通級による指導の教育課程において特別に設けられた指導領域

個々の児童生徒の自立を目指し、
障がいによる学習上・生活上の
困難を主体的に改善・克服しよ
うとする取組を促す教育活動

指導内容は…

「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」

「障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」

(6区分27項目)

自立活動の考え方を理解することで、何らかの支援が必要な児童生徒の理解を深め、支援を行うことができる可能性がある。

6区分27項目の視点は、子どもを捉えたり、良い点を伸ばそうとしたりする考え方ができるので通常の学級においても有効である。

2 今年度の取組

- 「なぜ、そうなのか？」と疑問をもって行う児童生徒理解の姿勢は、重要である。
- 児童生徒に目を向ける際、「6区分27項目」を意識して児童生徒を捉えることは多面的な見方と支援につながる。
- 「あの子にとって、より過ごしやすい教室は？より分かりやすい授業は？」と考え続ける。



在籍児童生徒の全てが授業参加できるとともに、安心して過ごすことのできる学級に

★「子ども理解の視点」「子どもの背景を考える」際の視点として

「6区分27項目」の有効性と発達支持的生徒指導との関連が窺えた

2 今年度の取組

★雲南市教育委員会「不登校対策プロジェクト」 (スリンプル・プログラム)の取組について

○雲南市「不登校対策プロジェクト」(R4年度～)

スリム+シンプル

◎「スリンプル・プログラム」 名城大学 曾山 和彦 教授 開発
目的：『かかわりの力』を育成→いじめや不登校の改善を目指す

① 週に1回 短時間
グループアプローチ

(ソーシャルスキルトレーニング
構成的グループエンカウンター)



② 各教科等の授業場面
ペア・グループ活動

(①のかかわり活動で身につけた
スキルを活用)

2 今年度の取組

子どもたちにとって…

他者理解 自己理解

自分らしさ
自分の良さを見つける

安心

スリムでシンプル
ルールと型が決まっている

教職員にとって…

傾聴

子どもたちの思いを知る

共感的
理解

共通理解

「一枚岩」

2 今年度の取組

★ノートルダム清心女子大学 青山 新吾 准教授
「インクルーシブ教育」について

インクルーシブ教育 = 包摂性のある教育 ← 様々な要素を含んでいる

インクルーシブ教育を進めていく際・・・

- 教師は、「個として見たときの個」と「集団の中の個」を分けて見る視点をもつことが大切
- 「どうしてかな？」という姿勢と眼差しをもって子どもを見ることが大切
- その子らしさ・学びやすさを大切にした学びを実現することが重要
- 子どもが主体的に学べるための授業デザインや協働的な学びのデザインが求められる
 - ➡ 令和の日本型教育で言われる「個別最適な学び」と重なる。

2 今年度の取組

インクルーシブ教育 = 包摂性のある教育

個別最適な学び = 自分にあった学びを自分で選び、自己の学びを自分で調整しながら成長していくことが重要

生徒指導・
教育相談の
視点

チーム学校
として

個としてみたときの個
集団の中の個

特別支援
教育の視点

➡ 教育効果UP↑



2 今年度の取組

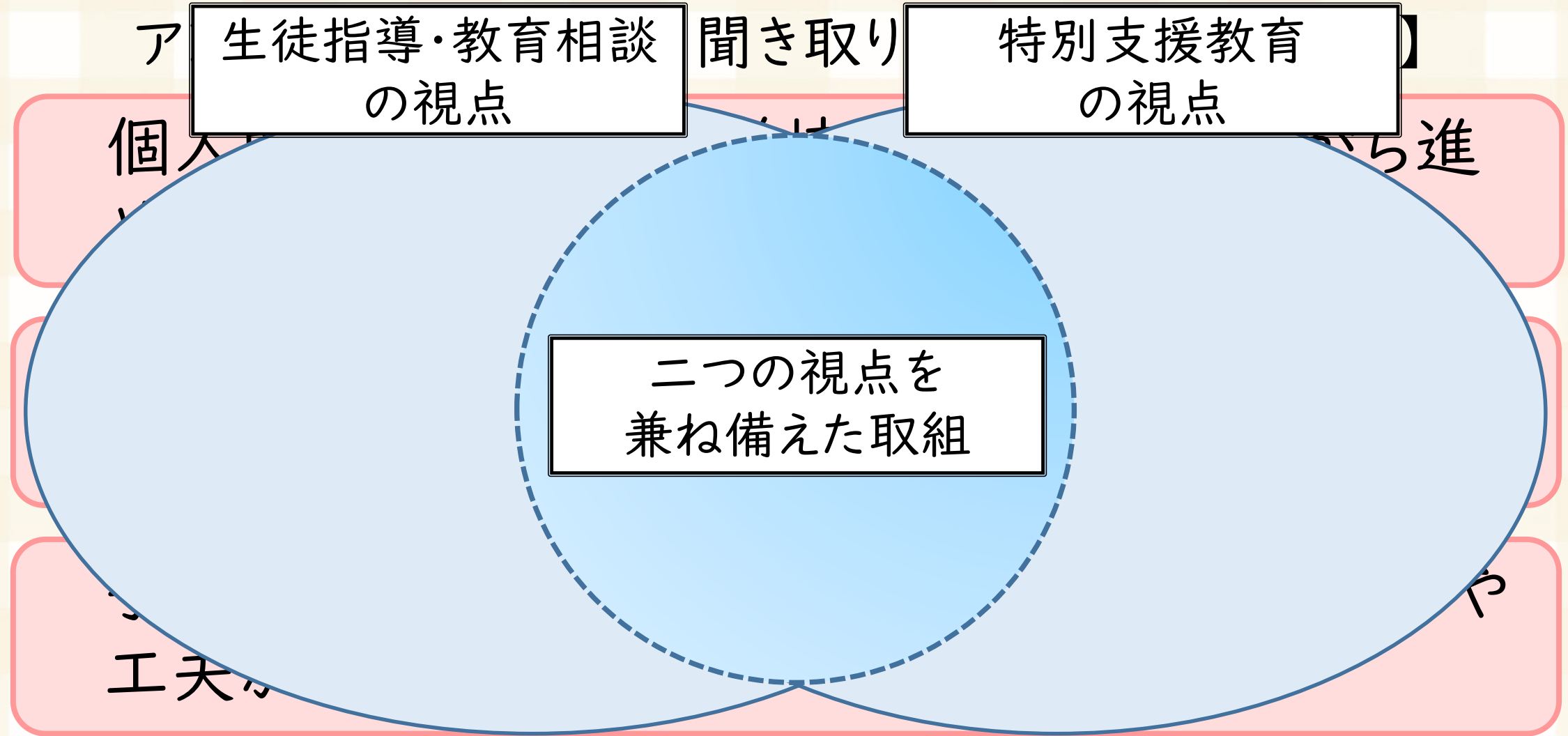
アンケート分析と先進地視察、聞き取り調査を受けて【考察】

個人的に進めるよりも学校全体で連携しながら進める方が効果が高い

教師の支えやコーディネートによって、子ども同士が互いの良さを認め合い、励まし合える取組である

子ども達が主体的に取り組むことができるしかけや工夫がなされている

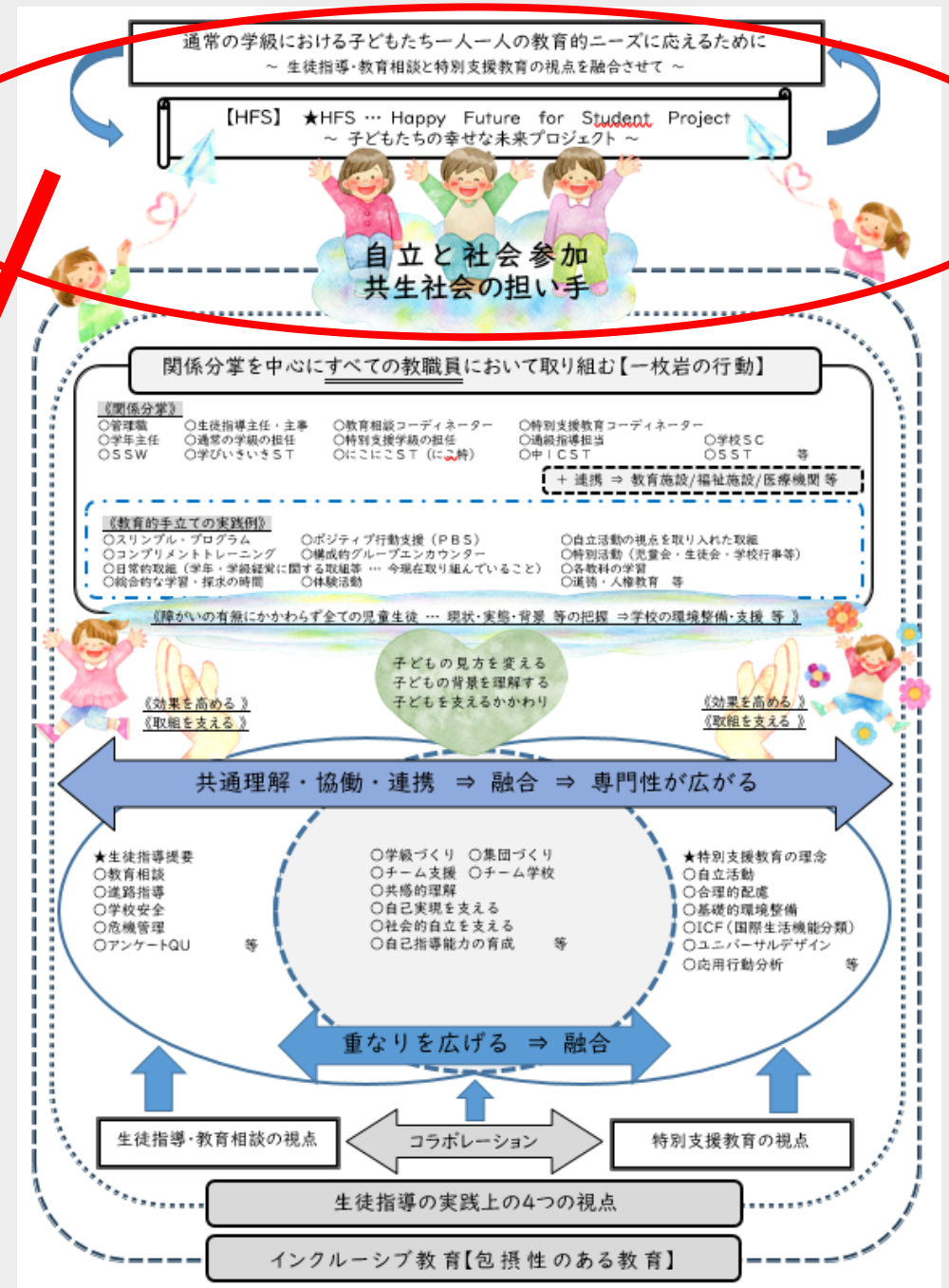
2 今年度の取組



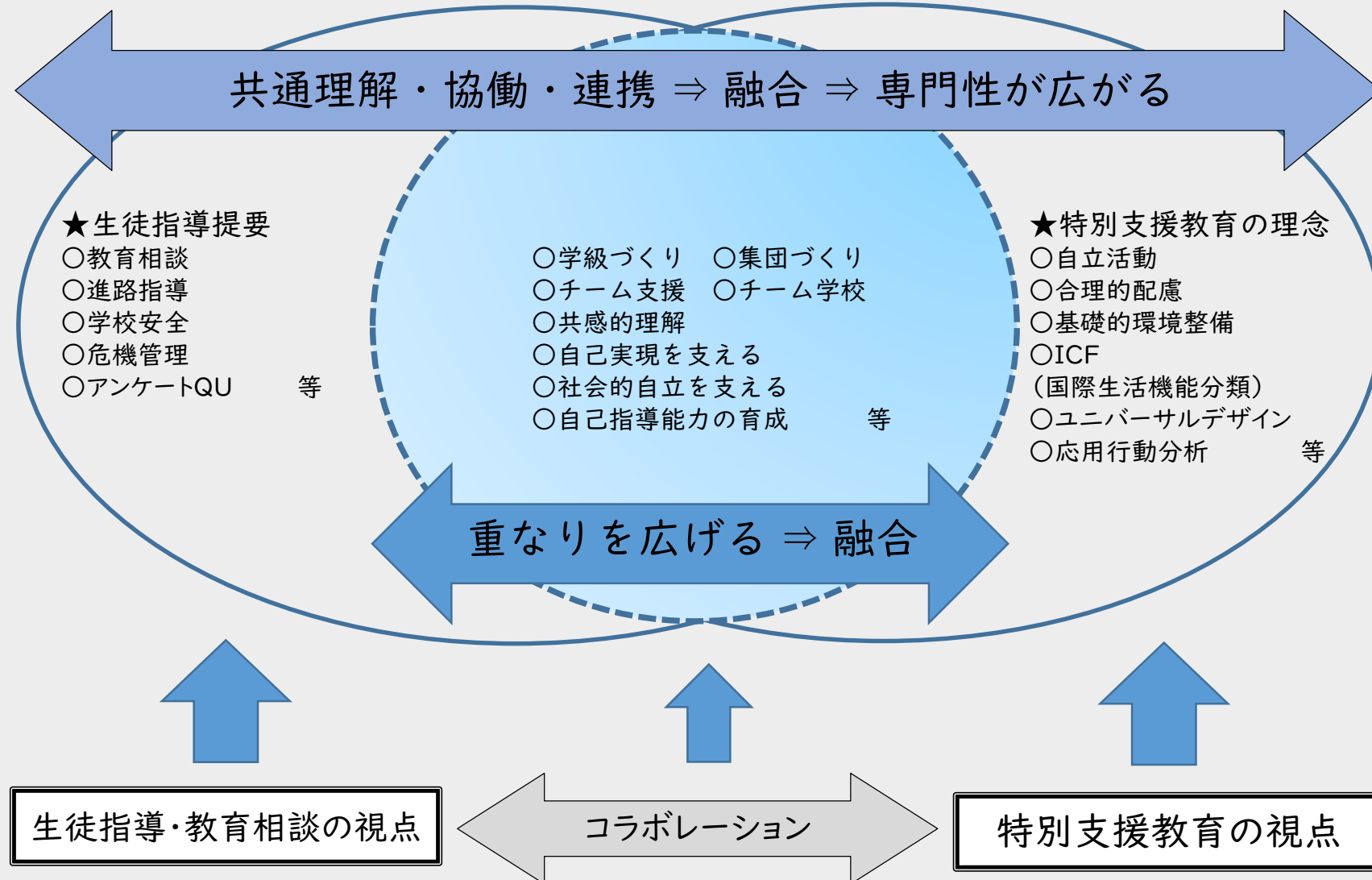
2 今年度の取組

③ 先行研究の調査や先進地視察等による情報収集・整理

★イメージ図の作成
*拡大版…別添資料参照



2 今年度の取組



2 今年度の取組

関係分掌を中心にすべての教職員において取り組む【一枚岩の行動】

《関係分掌》

- | | | | | |
|-------|------------|---------------|-----------------|--------|
| ○管理職 | ○生徒指導主任・主事 | ○教育相談コーディネーター | ○特別支援教育コーディネーター | |
| ○学年主任 | ○通常の学級の担任 | ○特別支援学級の担任 | ○通級指導担当 | ○学校SC |
| ○SSW | ○学びいきいきST | ○にこにこST（にこ特） | ○中ICST | ○SST 等 |

+ 連携 ⇒ 教育施設/福祉施設/医療機関 等

《教育的手立ての実践例》

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------|----------------------|
| ○スリンプル・プログラム | ○ポジティブ行動支援（PBS） | ○自立活動の視点を取り入れた取組 |
| ○コンプリメントトレーニング | ○構成的グループエンカウンター | ○特別活動（児童会・生徒会・学校行事等） |
| ○日常的取組（学年・学級経営に関する取組等…今現在取り組んでいること） | | ○各教科の学習 |
| ○総合的な学習・探求の時間 | ○体験活動 | ○道徳・人権教育 等 |

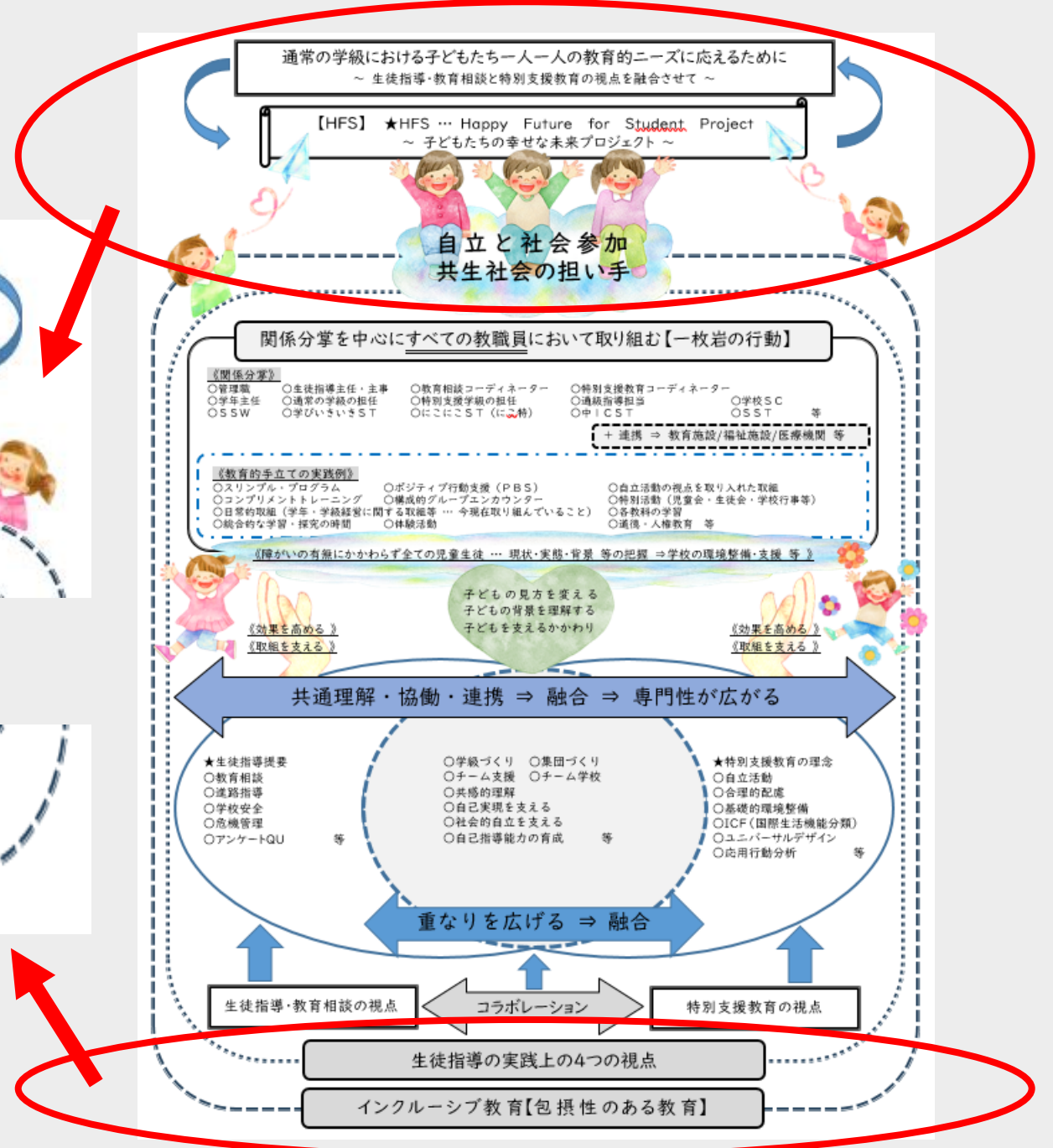
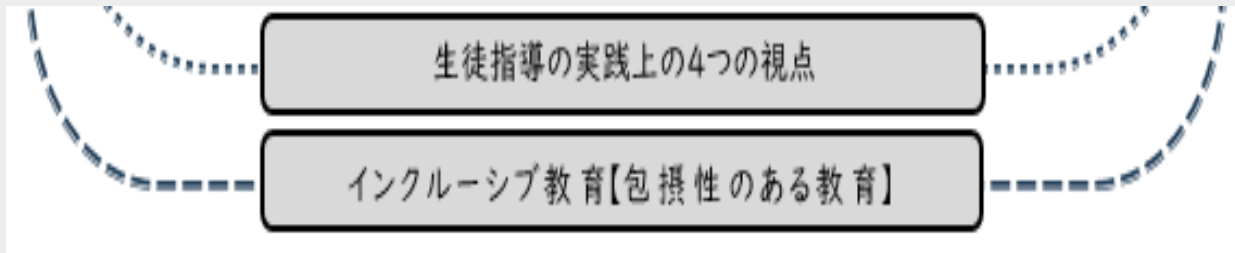
《障がいの有無にかかわらず全ての児童生徒…現状・実態・背景 等の把握 ⇒ 学校の環境整備・支援 等》

《効果を高める》
《取組を支える》

子どもの見方を変える
子どもの背景を理解する
子どもを支えるかわり

《効果を高める》
《取組を支える》

2 今年度の取組



3 成果と課題

成果

生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点において融合できる要素の確認ができた

生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させた取組のイメージ化

課題

取組の具体化⇒取組の有効性について検証

イメージ図の具体化と活用

【HFS】

Happy Future for Student Project

～子どもたちの幸せな未来プロジェクト～

子どもたちの幸せと
健やかな成長のために…



島根県教育センター 教育相談スタッフ
相談セクション & 特別支援教育セクション共同研究